

Vielen Dank für die schöne Zeit in Deutschland!

小田口知可

【約 10 年ぶりの渡独】

使節団応募のきっかけは、仕事で日々変化した自分の想いでした。海外国籍の人達と仕事をする中で、文化の違いを感じたり、英語と日本語が混ざった会議を重ねたりするうちに、もう一度日本を出て世界を見たい、私を育ててくれたドイツへ行って、自分が今何をどう感じるのか試したい、と強く思うようになりました。約 10 年前にドイツへ 1 年の交換留学へ行ったとき、私は旅行も国内のみで日本にとどまっていた。20 代も後半。行動するのは今だと、高まる気持ちで面接に臨み、合格通知が届いた時には、涙が出るほど喜びました。

この滞在記では、私が今回の滞在で経験した中でも、特に印象深かった内容を抜粋して記します。

【市庁舎にて、表敬訪問】

ミュンヘン空港に無事到着し、初秋を感じる日差しと涼しい気温に包まれて、バスでアウクスブルク市へ出発しました。

市庁舎に到着し、表敬訪問。市長をはじめ、アウクスブルク市のみなさまへご挨拶いたしました。

自分の名前を記帳する際、改めてこの貴重な交流に参加する使命感を感じました。



(写真 1 : 表敬訪問にて名前を記帳)

民族衣裳のディルンドルも着せていただきました。私が着たのはロココ調で、胸からお腹にかけての銀色の飾りが特徴的でした。帽子は貴族の証だったそうです。また、エプロンの幅が細いほど、家事をしなくてもよい身分という意味で、階級が高い女性を表したそうです。なんと、その時の写真をアウクスブルク市の新聞に載せていただきました。使節団に関しての記事と共に掲載いただき、とても光栄でした！



(写真 2 : アウクスブルク市の新聞)

【ホストファミリーとの時間】

私のホストファミリーは、漫画とアニメが大好きなとても素敵な夫婦と、そのご家族でした。家族の一員として本当に温かく迎え入れてくれました。

休日には、ノイシュヴァンシュタイン城と同じルードヴィヒ 2 世が建てた、ヘレンキームゼー城に連れて行ってくれました。

彼が憧れたヴェルサイユ宮殿を模して建築された建物の中には、70 もの部屋がありますが、そのうちの 50 部屋は今尚未完成の状態です。寝室などたくさんの用途によって部屋が造られており、中でも高価な部屋はマイセンで装飾されていました。



(写真 3 : ヘレンキームゼー城)

お城の中で美術展も開催されており、なんと尼崎市の有名画家「白髪一雄」さんの絵画を拝見することができました！ 沢山の国の方が訪れる場所で飾られている絵画を見て、とても誇らしかったです。



(写真 4 : 白髪一雄さんの絵画と家族と)

【保育所と小学校の訪問】

自身の研究テーマのために、教育機関の視察を希望しました。園内や学校を案内いただき、教育システムについても伺いました。そして、ドイツの子どもたちは小さい頃から「自ら選択して実行する」経験をたくさん積むのだな、と感じました。

保育所では、園児はその日何をしたいのか先生に報告し、それぞれの予定を過ごすのだそうです。小学校では、午前で勉強の授業が大体終わり、午後は自分で学習やアクティビティを選んで行動するそうです。そしてわずか 10 歳で、卒業後の進路を決めます。大学に進学できるギムナジウムへ行くのか、他の教育機関へ行くのかをこの時期に決めなければなりません。自由時間を大切にしつつ、幼い頃から自分で考えて決定し、行動できるようになる教育システムとして、とても魅力的に感じました。

【最後に】

ドイツのどこが好き？とよく聞かれます。素晴らしい文化はもちろんですが、やはり親切で温かい「人」が、最大の魅力だと私は感じています。

台風 21 号の影響で急遽スケジュールが変更になった中で、実施のためにご協力とご調整いただいたアウクスブルク市と尼崎市のみなさまに心から感謝しています。

今後も国際交流に参加したり等、今回の経験を活かして貢献していきたいです。

貴重な経験の機会をいただき、誠にありがとうございました。